

平成17年度正賛合同会議を開催

9月9日、平成17年度正賛合同会議を正会員15社、賛助会員52社、参加者114名の出席のもと、グランドホテル浜松で開催した。

会議では、電池が果たす社会的役割はますます重要なものになり、業界としては工業会の活動を通して回収、再資源化の推進、国連対応等積極的に取り組み、以前にも増して業界各社が切磋琢磨し、より一層、会員相互の協調が必要であることを確認した。

会議終了後、懇親会を開催し、正会員・賛助会員相互の親睦を図った。

1. 石田 徹 会長挨拶（抜粋）

- 昨年末より、日本経済は、全体的には「景気回復基調」にあると言われている。しかし、今後の見通しは、明後日に投票日を迎える衆議院総選挙の結果、泥沼の様相を呈しているイラク情勢、アメリカのハリケーン災害によって拍車を掛けられた石油の高騰など、経済環境はまだまだ楽観を許さない状況下にあると認識している。
- このような環境下、電池業界の動向を、2005年1～7月の販売前年比で見ると、全電池合計では、数量で97%金額で93%であった。一次電池は、数量で95%金額で93%。小形二次電池は、EV用途を除き、数量で100%金額で91%であった。鉛蓄電池は、数量で99%金額でも99%という結果で、小形二次電池の数量を除き、いずれの数字も前年割れとなった。

それぞれの分野の状況は、一次電池分野では、ニッケル系一次電池が、市場規模としてはアルカリ乾電池の1割強程度ではあるが、対前年比164%（数量）と健闘した。小形二次電池分野では、リチウムイオンが、数量では前年キープできたものの、金額では90%と、単価下落により前年を下回った。



石田徹会長挨拶

しかし、グローバルには、調査会社の数字ではあるが、数量・金額ともに2桁成長が続いている。新技術開発競争が激化するなか、日本の技術が世界をリードする状態にある。

鉛蓄電池の分野では、業界トップ2社の経営統合という大きなトピックスがあった。新リサイクルシステムは、産業構造審議会の審議が終了し、具体的な課題をこれから詰めていかねばならない。実質勝負はこれからである。

ここ数年、安価な輸入品の増加、それに伴う単

価下落、原材料の高騰、電池使用機器の需要構造変化などの“激変”が電池業界を揺さぶっている。結果、数字が示すように厳しい状況となっているが、グローバルには、電池市場はトータル3兆円に向け、持続的に成長を続けている。また、長期的な視点で見ても、電池の需要は、間違いなく拡大基調にある。電池業界は、乾電池や鉛蓄電池にはじまり、小形二次電池が大きく成長し、今まさに次のステップを迎えようとしている。ユビキタス社会を支える携帯電話・ノートパソコン・デジタルスチルカメラなどのモバイル機器やデジタル機器の電源として、電池が果たす役割は、暮らしや社会のなかで益々重要になっている。加えて、地球環境にやさしいHEV用としてのニッケル水素電池やリチウムイオン電池への注目度も高まっており、更なる発展を期待する。

- 業界発展の前提条件とも言うべき環境共生という視点では、小形二次電池・自動車用バッテリーに続き、一次電池の回収・再資源化技術がどうあるべきか、将来を見据え、工業会として研究すべく指示いたしました。そのほか、欧州指令への対応、企画・基準標準化事業などについても、積極的に取り組んでいく。
- さらに、業界の健全な発展を目指し、電池工業会加盟の各企業が切磋琢磨するとともに、フェアな競争と協調の精神を培っていくことが、以前にもまして重要になっている。昨今大きな話題になっている、企業の社会的責任・コンプライアンス（遵法）。これらの市場や社会からのさまざまなご要望に応えるとともに、新しい課題に挑戦することにより、電池業界がさらなる発展を達成できるよう、工業会として全力を尽くす決意である。ご出席の皆様には、より一層のご協力をお願いしたい。
- 本日の正賛合同会議の目的は、正会員と賛助会員との相互情報交換・交流を深めることであり、この機会を最大限活用し、新たなビジネス機会を生み出していきたい。

2. 杉野 一夫 専務理事による活動概況説明

(1) 海外環境に関する活動

ヨーロッパでは、RoHS（指定有害物質）の電池に限定した指定有害物（3物質）の規制「欧州電池指令」の改定案が、欧州議会の第2読会で最終審議が2005年9月から始まる。注目ポイントはニカド電池およびマンガン乾電池である。

(2) 業務・統計に関する活動

- 2004年暦年での販売金額実績はほぼ前年並みとなった。しかし、これまで好調だったリチウムイオン電池が前年割れとなった。
- 会員会社の小形二次電池の海外生産比率（数量）は、ニカド電池42%（前年比111%）、ニッケル水素電池34%（前年比170%）、リチウムイオン電池15%（前年比155%）となり、全体では23%（前年比134%）と国際分業化が進行している。
- 一次電池の輸入概況は、年々その数字を伸ばしてきたが、2003年からほぼ横ばいの状況となった。

(3) 電源設備認定に関する活動

2004年12月、蓄電池設備認定機関が電池工業会から日本電気協会に移行した。

(4) 国連対応に関する活動

- リチウムイオン電池、リチウム一次電池の国連航空輸送規制について、PRBA（米国電池工業会）と協力し、ICAO（国際民間航空機構）、国連危険物小委員会への参加と主要国へのロビー活動を行ってきた。
- 今後は、国連航空輸送規制のドラフトの作成と2005年11月からの国連危険物小委員会に輸送規制緩和を提案・推進する。

(5) 乾電池埋め立て実験の完了

- 福岡大学にて行われた「水銀入り乾電池の埋め立て実験」は20年目を迎え、最終調査段階に入り、分析作業はこれからである。
15年までの水銀に関する結果を要約すると、1) 水銀の溶出、気化双方とも環境基準を充分満足できるレベルである。2) 更に、有機水銀への変化は検出されなかった。
- 乾電池の水銀0化、水銀電池の生産を収束（空気亜鉛電池を開発し、代替）したとはいえ、世界に類を見ない長期にわたる実証は貴重な財産である。

(6) 一次電池／小形二次電池の互換性

- ニカド電池、ニッケル水素電池はアルカリ乾電池と互換性があるが、会員各社の充電器には、アルカリ乾電池を充電しない工夫がなされている。
- カメラ用のリチウム一次電池と、寸法・形状で互換性のあるリチウムイオン電池が最近販売されているが、一部のリチウムイオン電池の充電器には、リチウム一次電池の充電防止機能が付いていない。リチウム一次電池が誤って充電された場合、「発火」「発熱」「破裂」などの危険性がある。ホーム

ページなどを介して、リチウム一次電池の充電禁止を呼びかける。



懇親会 本間充副会長挨拶

3. 笑福亭 松枝氏の講演 「地球の健康・人間の環境」

「はてなの茶碗」という古典落語から始まった。油売りと『茶きんさん』と呼ばれる茶道具屋の主人との話で、人間の思いやりを基調にしたものであった。

地球は人間のためのものではない、環境は自分の足元から考えようなど、地球環境の保全について人がなすべきことの話しであった。



第36回小形二次電池部会を開催

平成17年9月7日、中谷部会長（三洋電機（株））を議長に、小形二次電池部会を開催した。

冒頭に、部会長と専務理事より挨拶があり、引き続き各委員会より活動報告が行われた。

1. 中谷部会長挨拶

リチウムイオン電池が、次世代への変わり目にさしかかっている。各種のシステムが提案されている。様々な提案が出てくることは、業界の活性化の証である。

HEV用としてリチウムイオン電池が提案されている。多くの会社が出てきたときに、部会としてまとめていきたい。

2. 杉野専務理事挨拶

カメラ用リチウム一次電池と互換性のある充電式リチウムイオン電池が販売されている。この充電システムにより、リチウム一次電池が誤って充電されると、発火などの危険性があるので、その対応が必要である。

3. 委員会等の報告

(1) 技術委員会（野上委員長）

SBA S1001「市販用円筒密閉形ニッケル水素蓄電池」2005年度改訂版を発行した。

「Ni-MH急速充電時間表示ガイドライン」に関連して、急速充電容量の実力値を確認する予定。

(2) 業務委員会（永峰委員長）

2004年第2四半期～第4四半期および2005年第1四半期の販売実績、海外生産分の出荷実績が報告された。

ニカド電池の国内需要は、防火シャッター、防災用途が堅調。輸出では、北米、中国向けのパワーツール用途が好調。単価の下落も抑えられたこともあり、2004年第3四半期から2005年第1四半期まで、金額でほぼ前年同期比109%となった。

ニッケル水素の国内需要は、電動アシスト自転車が堅調であるが、通信が落ち込んでおり、数量ベースの落ち込みが大きい、輸出では、オーディオ向けの角形から単四への移行が進んでいる。2004年第2四半期～第4四半期は、金額で90～96%、2005年第1四半期は持ち直して108%となった。

リチウムイオン電池の国内需要は、携帯電話の新製品需要の伸びが予想を下回ったため、低調であった。輸出では、台湾、中国向けPC用が堅調であったが、2004年第3四半期より、数量で前年同期を下回り、金額で2004年第2四半期より、前年割れの87～94%となった。

小形シール鉛の国内需要では、UPS用途が堅調。輸出は、海外生産へのシフトが進んでいるため、低調。

また、単価は上昇傾向にあり、金額で2004年第4四半期から、前年より僅かに増加している。

(3) 広報総合委員会（佐藤委員長）

平成17年「プロ野球最優秀バッテリー賞」の内容と配布用チラシを紹介、「でんちフェスタ」は、11月12日に日本科学未来館で親子参加型イベントとして開催。冊子「WE LOVE DENCHI」を作成した。ホームページ「電池の知識」の内容の充実とリニューアルを行った。

(4) 海外環境委員会（佐藤委員長）

EU電池関連法令について、環境理事会案は、第1読会最終コメントをHP上に掲載、これを受けて、第2読会で審議に入る予定。

海外での状況について、アルゼンチンでは、4月に重金属を含む電池の回収・リサイクル法案を議会で審議しており、近いうちに法律が施行される見込み。

(5) PL委員会（馳委員長）

欧州主要三カ国PL制度セミナーの報告があった。商品に欠陥が発見され、原告が提訴できるのは、3年、免責は10年で、いずれも日本と同じである。

(6) 国連対応委員会（森脇委員長）

PRBA（Portable Rechargeable Battery Association）より、国連会議にリチウム電池、リチウムイオン電池の危険物除外範囲拡大の提案を行うとの説明があったが、特に米国が反対で、BAJとしては、米国に対して技術的な反論を行う。しかし、全体としては、少し前進したと感じられる。但し、今後大きな事故があった場合は、成立が難しく、さらに厳しくなることは避けられない。今後、PRBAとの連携を強化し、次回11月末の審議に対応していく。

輸送を中心としたセミナーを9月10日に中国昆明で開催する。

(7) 再資源化委員会（新井委員長）

リチウムイオン電池の再資源化について、調査を行っている。

(8) 有限責任中間法人JBRC（生川専務理事）

東邦亜鉛(株)小名浜精錬所の再資源化処理委託業務監査を実施した。

「蓄電池設備整備資格者講習」の修了考査合格者（愛知県 開催分）

弊電池工業会は、平成17年8月30日～8月31日に愛知県において「蓄電池設備整備資格者講習」を開催いたしました。この会場の講習で修了考査に合格した方々は以下の通りです。

おめでとうございます。

尚、合格通知は直接、ご本人に通知いたしました。

この講習会の合格者数と合格率は、91名（98.9%）という非常に高い結果となりました。

[敬称略]

<愛知県>

大場知成、吉川和宏、袖嶋報悟、夫馬 悠紀隆、西部康紀、森 喜久治、高野史朗、日下部 浩臣、中井 謙、松浦善道、宇野芳実、稲葉真悟、山田邦夫、山口 勉、川崎真裕、永井享祐、山岸 巖、平畑昇次、長瀬昭浩、山崎 博、今西伸充、山下雅史、山本慎也、伊藤 肇、小野純一、中野真吾、森見公一、岩野博文、浅野陽輔、小池則芳、太田陽康、大内崇史、星野信祐、里村 渉、竹内 剛、

服部隆昌、山下雅紀、大坪治幸、麻生 守、三田村信弘、村上金満、吉川正記、野田裕二、横家直巳、伊藤俊一、今井 修、富田秀一、竹田 竜一郎、井上真邦、林 貴洋、伊藤文彦、渡邊賢治、大野義明、大川健二、出島博一、宮下弘紀、野崎真吾、多気章、伏見和真、浅野永嗣、永嶋真文、秋本利夫、望月 徳、富田明弘、蒔田 充、境 勝則、本田世紀、林 延弘、熊崎哲也、井戸 忍、斎藤徹三、渡邊浩二、大栗崇正、渡辺俊一、合葉英勝、山崎顕示、佐藤明雄、鈴木宏行、安藤 昇、大森龍三、山口功司、永田千人、八田正治、小笠原 大介、南部芳晴、中條 英晴、佐合敏之、梅村 剛、亀山健二、今井日出明、高木良徳

鉛蓄電池の規格

今回は、『鉛蓄電池の規格』についてお話をします。

鉛蓄電池は、世界中最も広くさまざまな産業分野で使用されている蓄電池の代表格です。蓄電池群の代表的な用途は、車両のエンジンを始動する際に必要不可欠な「自動車用鉛蓄電池」。携帯電話による通信を日本中のあらゆる場所につなぐための、本局や中継基地局の「電源設備」。さらに

は病院、公共施設などに「非常用電源設備」などで、一般には目に触れない所でも多く活躍しています。

鉛蓄電池は、各種の自動車や多用途に使用されているため、交換の際、製品の品質互換性および経済効果を活かすため、規格化されています。

以下は、代表的な鉛蓄電池の日本工業規格です。

No	規格番号	題 目
1	JIS C 8701	可搬鉛蓄電池
2	JIS C 8702-1	小形制御弁式鉛蓄電池 第1部：一般要求事項、機能特性及び試験方法
3	JIS C 8702-2	小形制御弁式鉛蓄電池 第2部：寸法、端子及び表示
4	JIS C 8702-3	小形制御弁式鉛蓄電池 第3部：電気機器への使用に際しての安全性
5	JIS C 8704-1	据置鉛蓄電池 一般的要求事項及び試験方法 第1部：ベント形
6	JIS C 8704-2	据置鉛蓄電池 一般的要求事項及び試験方法 第2部：制御弁式
7	JIS C 8972	太陽光発電用長時間率鉛蓄電池
8	JIS D 5301	始動用鉛蓄電池
9	JIS D 5302	二輪自動車用鉛蓄電池
10	JIS D 5303-1	電気車用鉛蓄電池 第1部：一般要求事項及び試験方法
11	JIS D 5303-2	電気車用鉛蓄電池 第2部：種類及び表示
12	JIS F 8101	船用鉛蓄電池

これらの規格は、技術の進歩などがあると、5年ごとに見直されます。

また、(社)電池工業会では、鉛蓄電池を幅広く適応できるよう、詳細な「製品や部品等について

の品質、性能」「安全な取扱い指針」「蓄電池の劣化診断」「機器に設置する際の設計指針」などに関する規格（SBA）を整備しています。

平成17年9月度の電池工業会活動概要

部会	開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
	15日(木)	広報総合委員会	『手作り乾電池教室』の結果報告、キャンペーン用ポスター案、「でんちフェスタ」の内容審議等
二次電池部会	1日(木)	自動車用電池リサイクル特別委員会	自動車用電池リサイクルスキームの検討
	2日(金)	自動車鉛分科会	SBAS0101、SBAG0101技術委員会修正案審議など
	13日(火)	電気車用電池リサイクル分科会	電気車用電池リサイクルスキームの検討
	14日(水)	据置鉛分科会	SBAG0303改正の審議など
	14日(水)	資材委員会・自動車用電池リサイクル特別委員会合同会議	自動車用電池リサイクルスキームの検討
	15日(木)	直需分科会・市販分科会・自動車用電池リサイクル特別委員会合同会議	自動車用電池リサイクルスキームの検討
	15日(木)	用語分科会	改正規格の様式審査、SBAS0405蓄電池用語の改正の審議
	15日(木)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池リサイクルスキームの検討
	20日(火)	アルカリ据置分科会	IEC情報、SBA劣化診断改正案の審議など
	22日(木)	二次PL委員会	安全表示ガイドラインの改正について審議
	26日(月)	市販分科会	自動車用電池リサイクルスキームの検討
	27日(火)	JARI共同活動	EV車両導入審査小委員会審議
	28日(水)	自動車鉛分科会	IEC国際会議対応、SBAG0101標準化委員会資料準備など
	29日(木)	二次技術委員会	IEC関係進捗、規格審議等
	29日(木)	資材委員会・直需分科会・市販分科会・自動車用電池リサイクル特別委員会合同会議	自動車用電池リサイクルスキームの検討
小形二次電池部会	1-2日	工場環境委員会	ISO14001規程改定、法条例改正に関する情報交換 北九州PCB処理施設見学
	22日(木)	再資源化委員会	Co系以外のLi電池分別再資源化の検討
	28日(水)	業務委員会	8月度販売状況の検討及び動態確認、海外生産分の確認
一次電池部会	2日(金)	PL委員会	二次と合同で日本リサイクルセンター見学
	21日(水)	プライマリーPJ	第1回検討会開催 座長を選任
	22日(木)	家電7品目表示	電池は消耗品として取り扱うことに
	27日(火)	TC-111	今後グリーンマネジメントが課題になる
	28日(水)	NITE成果発表会	誤使用の定義一般化してくる

屋外機器のバックアップに最適な屋外交流無停電電源装置(UPS) 「CAVSTAR(キャブスター)シリーズ」を新発売

株式会社 ジーエス・ユアサ パワーサプライ

株式会社 ジーエス・ユアサ パワーサプライ（社長：依田 誠、本社：東京都港区）は、防災カメラなど屋外機器のバックアップに最適な交流無停電電源装置(UPS)「CAVSTAR(キャブスター)シリーズ」を9月1日より発売いたします。

近年、日本各地で地震や洪水などの大きな災害が多発しています。2004年10月の新潟県中越地震以来、諸官庁が建物やビルにバックアップ電源の整備を推奨するなど防災意識が高まっており、国や自治体をはじめ企業などで、ライフラインの断絶を未然に防ぐ取り組みが積極的に進められています。

特に大規模な災害の発生時には、初期段階の状況把握とその対応が重要であり、弊社は屋外に設置されている防災機器の電源をバックアップする製品の開発をコンセプトに、屋外設置向け電源装置の豊富な経験と実績に基づき、「CAVSTARシリーズ」を開発しました。

「CAVSTARシリーズ」は、メンテナンスフリータイプの小型制御弁式鉛蓄電池の他に、新技術としてリチウムイオン電池の搭載が可能です。リチウムイオン電池は複数のセルを組み合わせたモジュール構造となっており、保守性を高めました。リチウムイオン電池は鉛蓄電池に比べ、エネルギー密度が高いため、バックアップ時間が同一の場合、電源装置全体で約30%の小型軽量化を実現しています。

特長

1. 負荷容量とバックアップ時間により、蓄電池が選択できる
2. LAN監視対応
3. 低ノイズ



屋外交流無停電電源装置「CAVSTARシリーズ」

補水が不要な配送車専用バッテリー 「PRODA VR(プロダ・ブイアール)シリーズ」を新発売

株式会社 ジーエス・ユアサ バッテリー

株式会社 ジーエス・ユアサバッテリー（社長：清水正、本社：東京都港区）はこのたび、配送車（アイドリングストップや短距離走行を繰り返す用途）専用のVRLA（制御弁式）バッテリー「PRODA VRシリーズ」2形式4タイプを9月中旬より販売開始いたします。

弊社では、従来より環境に配慮し、社会へ貢献すべく、「配送車のアイドリングストップをサポートする」という考え方のもと、「PRODA DELIVERY（プロダ・デリバリー）シリーズ」を今年7月より販売しております。この考え方をさらに発展させ、配送車特有の使用環境である、放電気味で使用した時の充電回復性、耐久性に優れ、かつ、運送業界における整備簡略化の流れの中で、補水不要というメリットのあるVRLA（制御弁式）バッテリーを新たに開発いたしました。

本商品は、業務用車向けブランドである「PRODA（プロダ）」の中の1シリーズとして位置付け、宅配業などの車両を中心に提案をしております。

※VRLA（制御弁式）バッテリーについて

「負極吸収反応」という原理を用いて、充電中に正極板より発生する酸素ガスを負極板で還元することにより再び水に戻します。そのため、補水の必要がありません。

PRODA VRシリーズの主な特長

1. VRLA（制御弁式）バッテリーであり、補水の必要がない。
2. 正極板の活物質に高密度ペーストを採用し、重負荷に対する耐久性を高め、長寿命化を実現。
3. 特殊セパレーターの採用などによって極板群の高圧迫化を可能とし、活物質の脱落を防止して長寿命化を実現。
4. 溶接部に高信頼性、高耐食性の合金を採用し、長寿命化を実現。
5. 弊社配送車向けバッテリー「PRODA DELIVERYシリーズ」と同等レベルの高い充電受入性能。



配送車専用バッテリー「PRODA VRシリーズ」

1250VA／1000W品で世界最小クラスのコンパクト設計を実現した 常時インバーター給電方式の交流無停電電源装置(UPS) 「Acrostar(アクロスター)RHA1250」を新発売

株式会社 ジーエス・ユアサ パワーエレクトロニクス

株式会社 ジーエス・ユアサ パワーエレクトロニクス
(社長：辻村 耕治、本社：京都市)は、常時インバーター給電方式の交流無停電電源装置(UPS)「Acrostar RHA1250」を9月20日より発売いたします。

弊社は、日本電池(株)と(株)ユアサ コーポレーションの汎用電源事業の統合により2004年6月に誕生して以来、両社のノウハウを結集し、新たなニーズに応えるべく新製品の開発に取り組んでまいりました。今回発売する「Acrostar RHA1250」は統合第1弾製品で、容量1250VA/1000Wタイプにおいては世界最小クラスのコンパクト設計を実現したタワー/ラックマウント兼用UPSとなります。

本製品の内蔵バッテリーは長寿命タイプ(期待寿命3~5年)の小形制御弁式鉛蓄電池を採用し、メンテナンスにかかる負担を軽減します。バッテリー交換時はシステムを止めることなく、前面から簡単に交換できます。

また、最大3台のバッテリーユニットを増設することで、長時間の電源供給を可能にし、システムに合ったバックアップ時間の選定が可能です。

特 長

1. 高力率負荷対応の1250VA/1000W
2. 安定した電源供給
3. 世界最小クラスのコンパクト設計
4. 幅広い入力電圧範囲(60~120V)
5. 抜け止めコンセント標準装備(6個)
6. 3系統の出力遅延制御を標準装備
7. 前面からのバッテリー交換が可能(長寿命バッテリー搭載)
8. システムに合ったバックアップ時間が可能



交流無停電電源装置(UPS)「Acrostar RHA1250」(ラックマウント設置時)

7月度電池および器具販売実績（経済産業省機械統計）

（2005年7月）

単位：数量、千個、金額、百万円

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	505,690	57,068	97%	105%	3,334,959	388,554	96%	99%
全電池合計	504,816	56,013	97%	105%	3,328,859	380,455	96%	98%
一次電池計	365,499	11,811	95%	95%	2,396,283	75,832	93%	92%
マンガン乾電池	56,673	855	74%	70%	399,055	6,325	80%	75%
アルカリ乾電池計	101,991	5,196	92%	93%	651,267	32,378	95%	92%
単 三	53,581	2,387	85%	89%	363,572	15,631	89%	88%
単 四	30,178	1,222	105%	93%	182,197	7,707	112%	104%
その他	18,232	1,587	95%	98%	105,498	9,040	89%	91%
酸化銀電池	79,816	846	100%	97%	550,745	5,901	95%	94%
リチウム電池	103,830	3,722	103%	96%	671,962	24,413	95%	88%
その他の乾電池	23,189	1,192	157%	150%	123,254	6,815	139%	140%
二次電池計	139,317	44,202	102%	107%	932,576	304,623	103%	100%
鉛電池計	3,303	10,351	101%	93%	21,957	73,944	99%	100%
自動車用	2,132	5,830	99%	92%	13,782	39,287	99%	98%
二輪用	308	641	103%	96%	2,312	4,774	95%	93%
小形制御弁式	615	744	104%	99%	4,158	5,258	96%	100%
その他	248	3,136	120%	92%	1,705	24,625	112%	106%
アルカリ電池計	62,024	10,848	91%	104%	421,207	71,741	101%	111%
完全密閉式	33,626	3,840	90%	96%	231,768	25,246	102%	103%
ニッケル水素	28,387	6,786	92%	110%	189,353	44,835	100%	119%
その他のアルカリ電池	11	222	92%	99%	86	1,660	85%	75%
リチウムイオン電池	73,990	23,003	115%	117%	489,412	158,938	105%	96%
器具計（自主統計）	874	1,055	119%	160%	6,100	8,099	101%	99%
携帯電灯	542	405	149%	124%	3,543	2,901	123%	127%
電池器具	332	650	90%	195%	2,557	5,198	81%	88%

7月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2005年7月）

単位：数量、千個、金額、百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	298,911	29,551	98%	101%	1,912,387	189,762	96%	97%
一次電池計	160,566	2,910	90%	88%	1,034,905	18,127	90%	89%
マンガン	44,366	520	90%	120%	259,063	2,771	82%	103%
アルカリ	20,932	410	80%	79%	140,283	2,401	100%	86%
酸化銀	38,852	438	105%	108%	270,384	2,935	105%	102%
リチウム	53,195	1,481	86%	80%	348,058	9,664	83%	84%
空気亜鉛	3,057	51	115%	119%	14,683	239	100%	103%
その他の一次	163	10	11%	17%	2,433	117	41%	45%
二次電池計	138,344	26,641	108%	103%	877,482	171,636	103%	97%
鉛蓄電池	681	644	252%	81%	3,496	6,105	216%	149%
ニカド	30,228	2,702	95%	104%	207,303	17,846	108%	114%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	0	1	1%	17%
ニッケル水素	18,344	2,697	112%	120%	112,542	17,896	112%	150%
リチウムイオン	68,563	17,645	123%	103%	433,442	111,771	106%	91%
その他の二次	20,529	2,953	88%	96%	120,699	18,017	81%	83%
全電池合計（輸 入）	56,491	6,325	91%	110%	436,686	44,679	107%	122%
一次電池計	46,758	830	88%	77%	372,557	7,650	104%	90%
マンガン	8,883	105	95%	92%	90,220	985	107%	96%
アルカリ	28,267	396	74%	64%	217,623	3,383	93%	85%
酸化銀	164	6	41%	70%	1,403	32	86%	93%
リチウム	5,077	196	414%	133%	23,171	1,485	212%	152%
空気亜鉛	437	15	57%	88%	7,164	181	123%	135%
その他の一次	3,929	112	127%	64%	32,976	1,583	144%	67%
二次電池計	9,733	5,496	104%	117%	64,129	37,029	127%	132%
鉛蓄電池	602	1,388	87%	85%	4,563	10,574	111%	112%
ニカド	1,306	348	40%	71%	13,031	2,728	70%	78%
ニッケル鉄	14	12	187%	73%	89	178	94%	115%
その他の二次	7,811	3,748	146%	148%	46,445	23,549	168%	158%